

今回、都営交通 105 周年記念一日乗車券の発売に合わせた景品として、東京の誇るべき手仕事文化をより多くの方々に知っていただく機会とすべく、平成 27 年度「東京手仕事」プロジェクト\*注1に参加された東京日本橋「龍工房」の協力を得て、「東京くみひも」によるストラップ付パスケースをご用意しました。

\*注1 「東京手仕事」…平成 27 年度に開始した、東京の伝統工芸品を新しく現代に創生し、その魅力を国内外へ発信する、公益財団法人東京都中小企業振興公社によるプロジェクト <http://tokyo-craft.jp/>

## ■「東京くみひも」について

くみひもの歴史は古く、その用途も多く、現代帯締めや羽織ひもなど、私たちの日常生活には欠かせないものとして広く使われています。

こうしたくみひもの技術・技法は、古くは中国や朝鮮を経て伝えられ、時代とともにいろいろなものに使われるようになりました。

仏教の伝来に伴うお経の巻き物や袈裟、貴族の礼服の添帯さらに武士の台頭による兜や鎧のおどし糸や刀の柄巻など多方面に活用されてきました。

また、小袖が流行してくると帯や腰ひもに、さらに帯締めなどへと普及していきました。くみひもの技術は当時は武士の生業として行われていたといえます。

日本は世界でも珍しいくらい「ひも」の発達した国だといわれ結ぶは単に物をしばったり継いだりするだけでなく、結び方、結ぶ紐の色結びの配置などにより、吉凶、性別、身分などを表現するものです。又、それは高麗打朝鮮組などという名称からも、その源泉は大陸朝鮮半島からの渡来をうかがい知ることができます。

くみひもを組み上げるための組み台には、角台（かくだい）、丸台、綾竹台（あやたけだい）、重打台（じゅうちだい）、高台（たかだい）、内記台（ないき）および箆打台（かごうち）の7種類に分類することができます。糸と糸とが交差する組み目とワビ・サビといわれる渋好み色使いが、東京を代表する「くみひも」の一つとなっています。

（出典）産業労働局ホームページ「東京の伝統工芸品」より

<http://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.jp/shoko/dentokogei/japanese/hinmoku/8-kumihimo.html>



## ■東京の伝統工芸品について

東京の伝統工芸品は、長い年月を経て東京の風土と歴史の中で生まれ、時代を越えて受け継がれた伝統的な技術・技法により作られています。

現在、40品目が東京都の伝統工芸品として指定されており、「東京都指定伝統工芸品」として検査に合格した製品には、右のマークが貼られています。

